

## 目 次

### はじめに

#### (一) 明治期・中馬込小学校の建設と長崎県内の部落調査

1

##### ・小学校の建設——「解放令」

4

##### ・部落改善運動の展開

4

#### (二) 大正期・部落産業の盛況と部落改善施策

- ・部落産業としての製靴業
- ・部落改善の方策
- (三) 昭和前期・長崎県水平社の結成と戦後すぐの差別事件
- (四) 昭和後期・部落解放運動の開始と同和教育の展開
- (五) 平成期・部落差別にかかる事件と教育・行政

29 25 21 17 13 12 12 12 8 4 1

終わりに

### はじめに

長崎県人権教育啓発センターでは、二〇一六年一一月から一二月にかけて県の人権・同和問題啓発強調月間にあわせて、「部落問題と新聞報道（明治・大正・昭和・平成）」とする企画展を行い、二九点のパネルを展示した。内訳は明治時代九点、大正時代が六点、昭和時代前半（昭和元年から二二年）四点、昭和時代後半（昭和四六年以降）が三点、平成時代が七点である。一九七九年長崎県部落史研究所（現・NPO法人長崎人権研究所）が結成されたあと、明治・大正・昭和期に長崎で発行された新聞の悉皆調査を試みたが、特に昭和期については不十分のまま終わってしまった。しかし、そこで見出された記事は予想以上に多く、全国的な動向も報道されており、時代時代で部落問題がどのように変遷したのかを示す貴重な資料となつた。今回は、そこで検索された記事と、昨年長崎人権研究所が取り組んだアーカイブ事業でデータ化された七〇年代以降の記事から、それぞれの時代を映す最低限紹介したい記事を選び、パネル化したものである。

大まかに時代の特徴を述べると、明治期は、解放令直後の被差別部落で小学校が作られたことを賞賛した記事、また県内の部落実態調査に関する記事があり、当時の被差別部落の概要が紹介された。大正期は、部落産業である製靴業の盛況を伝え、当時細民部落と呼ばれた被差別部落の地区数・人口等の調査結果や改善策を伝えている。また、全国水平社の結成にも注意が払われている。昭和前期は、